

Support for Woman Doctors ～私からあなたへ～ 「アナログ女医のつぶやき」

十枝 めぐみ 先生【香川県 13期】

綾川町国民健康保険綾上診療所
お子さんは高3女子 高1男子 中2男子の3人

みなさんこんにちは。突然ですがみなさんはアナログ時計が好きですか？デジタル時計が好きですか？私は断然アナログ時計です。アナログ時計の方がぱっと見たときに、「あとどれくらい」とか「もうこんなにたったんだ」ということが感覚的にわかると思うのです。デジタル時計だと足し算したり引き算したりしないといけないと思いません？

申し遅れました、香川 13 期十枝です。前回の後藤さん、前々回の吾郷さんは同じ時期に寮生活をともにした後輩です。すいません、旧姓の頃からのつきあいなので。彼女たちからは今も「まつめさん」（旧姓が松本なので）と呼ばれています。ちなみに彼女たちの素晴らしいサポーターであるご主人たちのこともよく存じ上げています。学年に 4 人しか女子がいなかつ私たちの学年からすれば、どんどん下の学年の女子の人数が増え、彼女たちのパワーに圧倒されたことを思い出します。女子学生の割合が 3 割を超す今となっては想像できないかもしれません、6 年生まで合わせて女子が 24 人しかいなかつた年に入学した私たちは、女子というだけで珍しがられ、優遇され、県人会や部活動とは関係ない先輩にごちそうになつたりと、今から思えばおいしい生活を送つたものです。ただ、現場に出てからは「女医はいらん」とか「だから女はいかん」とか何度もつづらう思いもしました。それでも地域医療をここまで続けてこられたのは地域医療が楽しいからにはなりませんし、女医ならではの喜びがあるからにはなりません。

私は、診療所に来て 20 年目に入り、なんのキャリアももないまま年だけは食つてしましました。専門医制度が始まるに当たり、何の資格も持たない私は指導医になることもできず、このままでは診療所に若い先生がだれもきてくれないのでと危機感にさいなまれる今日この頃です。それでも外来に在宅に健診に保健事業に日々走り回り、高校生の長女と長男の弁当づくりを「意地」でこなし、中学生の息子の PTA の奉仕活動に早朝から参加し、忙しいけれども楽しい毎日を過ごしています。



去年の夏休み、ハワイ
マウナケア山頂付近か
ら家族と見た天の川

最近実習で来られる香川大学の学生さんの中には水銀の血圧計を使えない方がいます。大学病院で使っているのはデジタルの血圧計で、カフに空気を送るのは手動でも表示は自動で出てくるよう、水銀がゆっくり落ちていく中でコロコロ音を聞き取るのが難しいようです。今後現場の血圧計はみんなデジタルになっていくのでしょうか。いまだに時計はアナログ、自家用車はミッションにこだわる前世紀の人間としては寂しい限りです。今後診療の現場にもデジタルの波は押し寄せてくるでしょう。バイタルサインや身体所見、血液検査データを入力すれば診断してくれるロボットなんかもそのうち現れそうですし。でも人間の身体ってデジタルじゃないと思うのですよ。ここからここまでが「正常」で値が 1 でも外れると「異常」ってそんなにきちんと区切れないことはたくさんあると思うし、何回検査しても異常値は出ないけど何かおかしいと思っていたらやっぱりあとになって隠れていたがんが見つかったとかいうことも何度か経験するし。胃カメラの所見にても明らかにおかしいわけではないけど何かおかしいと思って組織をとつたらがんが出たなんてことは結構あります。医療の世界ってそういう「なにかおかしい」と感じることのできる「感性」がとても大切で、そういう部分、女性のほうが得意なような気がするのですが…。「女の勘」ってやつ？

仕事と家庭の両立はもちろん大変です。そのうえキャリアアップを目指すのはほんとに大変なことだと思います。私は結局キャリアアップをすることなく地域医療をキャリアに日々過ごしていますが、毎日やりたいことが見つかってとても充実した日々を過ごしています。忙しいですが、休みはきちんと取って美しいものを見たり、楽しいことをしたり。これも感性を磨くことにつながっているのでは？と勝手に解釈しています。学生さんや研修医の先生にはいつも「診察室の向こう側」のことを考えた診療ができる医者になってほしいと話をしています。そのためには「感性」がとても大切と思うのです。これからも感性を磨き続けデジタル機器も使いこなせるアナログな女医でがんばりたいと思っています。

後輩医師・学生へ一言メッセージ

「 女の勘を磨け！」